

受験を振り返って

九州大学 医学部 医学科
43期 宮田 響

まず初めに、多くの人が、部活を続けるべきかどうか迷うと思います。部活に時間を割く分、他の受験生より勉強時間は減ってしまい、確実に不利にはなります。ですが、一緒に頑張った友人やその時に得た経験は一生の財産になるので、迷っているのなら続けて欲しいと思います。合格者のたどる道は百人いたら百人異なる道を辿ることになりますが、その中でも薬科生には薬科生の受かり方があります。

まずは先輩方がどのような方法で勉強したかを知るために、進学の道しるべを読むことをお勧めします。その際、共通して書かれる「薬科の授業が大事」「基本が大事」の二つのことを読み流さないでください。受験勉強はインプットとアウトプットであり、基本事項のインプット量が合否に大きく影響します。ここでの基本とは教科書です（特に数学、物理）。中学の教科書とは違い、高校の教科書は受験に必須であり重要です。教科書の理解を深めるためには何が重要かと考えると、「学校の授業」に帰着します。これが間違いなく王道ですし、高三になるとそのことに気づくのですが、同時になぜそうしてこなかったのかを後悔するので、ぜひ皆さんは王道を通して下さい。ただ、簡単に通れないからこそ王道なのかもしれません。

授業が大事とは言いましたが、高三になると、五年間のつけが回った現実を目の当たりにすると思います。僕もその一人でしたが、高三生に伝えたいのは、「絶対に大丈夫」ということです。その代わりこの一年は地獄の一年を過ごしてください。そしたら絶対に受かります。ただし、やみくもに問題集に手をだすより、学校の授業を軸に、自分を分析した勉強計画を立てていくことが重要です。僕自身も一対一や青チャートは中途半端にしか手をつけられませんでした。高三の授業を欠かさず予習・復習することで力をつけることができました。夏休み後半からは模試ラッシュとなり結果で苦しくなることもあります。僕も駿台の九大模試はE判定、数学が0完でした。それでも本番は、数学は5題中、4完半の手ごたえがありました。現役生は、秋ごろに猛烈に伸びますが、その伸びは模試に反映されないことの方が多いので、模試の判定に一喜一憂するよりも、結果を分析し、自分なりの受かり方を見つけてください。受験勉強中は苦しい中でも、失速することなく走り続けることが重要です。

最後に、添削でお世話になった先生方、本当にありがとうございました。薬科の先生方の添削の力は絶大ですし、その時々にかけて下さる言葉のおかげで何度も踏ん張れました。そして6年間、支えてくれた先生方、家族に感謝しています。多くの合格体験記の後半に感謝の言葉が並ぶのも、受験期後半になると自分一人の力で走ってきたわけではないことに気づかされるからだだと思います。最大の恩返しは合格を報告することです。この体験記が微力ながらも一つの「道しるべ」となればと思います。